平成２９年度第２回岐阜県教員育成協議会の報告について

１　開催日時・場所

平成２９年１０月５日（木）　１０：００～１１：４０
県総合教育センター　１棟３階第３研修室

２　委員から出された主な意見

（１）教員研修の体系について

○　教員研修のベースには校内研修がある。授業実践等は校内が主となる。校外研修は、校内研修の方向付けや確認の意味もある。

○　各研修講座の意図を明確にして、受講者が展望と目標を持てるメッセージになるとよい。例えば、６年目研修を「教員としての成人式」に位置付けてはどうか。

○　指標はこの方向でよい。個々の研修講座と指標の関係をわかりやすく示すため、紙ベース以外にも、デジタルコンテンツを利用して提供方法を工夫してはどうか。

（２）基礎形成期における研修

○　教員には、自ら研修に臨む主体性が必要である。初任者研修は悉皆研修で良いと思うが、２年目研修以降は、一人ひとり立場や課題が異なってくる。ニーズに応じて選択できるようにしてはどうか。

○　研修の全てを選択制にすると、結果的に受講しない可能性もある。例えば「３年間で規定数の研修を受講する」という示し方も考えられる。

○　初任者研修の負担は学校規模によっても異なる。特に小学校はすぐ担任となることが多く、いかに短期間に一人前にするかが課題である。ＯＪＴ・メンター制を駆使しつつ、校内の裁量で多くの経験を積ませる必要があり、校長のマネジメント力によるところは大きい。

（３）大学の教員養成段階について

○　学生に対し、教育実習の指導や演習などを行っているが、教員になるというリアリティーが十分には伴わない。

○　学生側には、どうしても採用試験をゴールとする傾向がある。大学側としては、教科そのものの面白さを伝え、学生にもっと教科の力をつけたいと考えているが、現実にはなかなか浸透していない。

○　県と大学が協力し、養成から採用までを有効につなぎたい。いよいよ教壇に立つという学生には、その直前に心構えを説くなど、何らかのメッセージを送る方法を共に検討したい。

○　一方で、研修の重要さばかり全面すぎると、学生には辛さが先立つ。教員は夢のある職業であることも伝えていきたい。